

憧れを、かたちに。



三井ホーム

木造で、 CO₂は 減らせる。^{※1}

あなたは知っていますか？

じつは、建物をつくるとき、鉄やコンクリートより、
木で建てるほうが、CO₂排出量は少ないのです。^{※2}

そして、木はCO₂をぐんぐん吸収して育ったのち、
木材になっても炭素をストックしつづけてくれます。

木の建物は、いわば、炭素の貯蔵庫。

これまで250,000棟以上の木造建築をつくってきた^{※3}

三井ホームの累計炭素固定量は、

およそ383万トンと推定されます。^{※4}

これは、杉の木に換算すると758万本、^{※5}

東京ドーム2,162個分の森林面積が
貯蔵する炭素量にあたります。

私たちは、工法を構造から進化させることで、

これまで木で建てられなかった大規模建築物まで、
どんどん木造に変えていきます。

これからは、木の施設や住まいを選ぶことも、

社会貢献のひとつになっていく。

木造建築の可能性を広げることで、

脱炭素に貢献していく、三井ホームです。

木で建てれば、街は森になる。
三井ホームの木造建築

※1 ①木造建築は、鉄骨造やRC造と比べ建築時のCO₂排出量が少ないこと。
②木材は、炭素を固体として長期間貯蔵することで、大気中のCO₂濃度上昇の抑制に役立つこと。③木材は、高断熱・高気密性により住んでいる間の冷暖房の消費エネルギーを抑えることができること。以上の理由から、建築物における木材の利用を促進することによって、CO₂排出量を抑制できることを表す。※2 自社MOXION INAGIを鉄筋コンクリート造で建設した場合との比較。※3 三井ホームグループによる実績。(2023年3月末時点) ※4 ①国土交通省「令和4年度、住宅経済関連データ」(<https://www.mlit.go.jp/statistics/details/t-jutaku-2/tk-000002.html>)。日本の滅失住宅の平均築後年数38.2年より、1985年3月31日以前に引渡しのある物件はすべて滅失しているものと仮定して計算に含めず、1985年4月1日以降に引渡しの物件はすべて現存しているものと仮定して試算。(2023年3月末時点) ②林野庁ホームページ「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づく試算。<https://www.rinya.maff.go.jp/mokusan/mieruka.html> (2023年3月末時点) ※5 林野庁ホームページ「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づく試算および炭素貯蔵量計算シートによる換算。

&EARTH with WOOD

木造建築による炭素固定量を、WEBサイトで公開中。

三井ホーム 木造建築



三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP